

シグマ研究委員会  
63年度第3回運営委員会議事録（案）

日 時： 昭和63年9月2日（金） 13:30～18:00  
場 所： 日本原子力研究所 本部 第3会議室  
出席者： 鹿園（原研）、北沢（東工大）、瑞慶覧（日立）、中嶋（法政大）、  
村田（NAIG）、若林（動燃）、五十嵐、長谷川、水本（以上原研）  
幹 事 浅見、中川（原研）  
オブザーバー 吉田（NAIG）、菊池（原研）

配布資料

1. 63年度第2回運営委員会議事録（案）
2. 63年度シグマ特別専門委員会／シグマ研究委員会議事録（案）
3. 運営委員会での審議未了事項
4. シグマ研究委員会63年度旅費使用実績
5. シグマ特別専門委員会、運営委員会、諮問・調整委員会名簿
6. NEANDC第27回会合議題
7. 1988年核データ研究会プログラム案
8. シグマ研究委員会の構成
9. JENDL-3以降の核データ関連分野の動向
10. A.B. Smith 氏から H. Gruppelaar 氏への手紙
11. J.J. Schmidt 氏から五十嵐氏への手紙
12. Report of the ITER Scientific and Technical Advisory Committee of the R & D Plan (Final Draft) の抜粋
13. 医学用原子分子・原子核データWGに関する検討小委員会報告
14. 評価活動調査タスクフォース設置についての資料

議 事

1. 議事録確認

前回の運営委員会議事録（配布資料1）と7月8日の本委員会議事録（配布資料2）を確認した。

## 2. 事務局報告

### 1) 宿題事項の処理報告

前回の Action list がすべて処理されていることを Action の各担当者から報告があった。

### 2) 運営委員会での審議未了事項について

配布資料3に示された審議未了事項の今後の予定について、関係者から次の通り報告があった。

- a. 「データ等の提供基準検討小委員会」については答申がほぼ出来ているので浅見氏が早急にまとめる。
- b. データブックの作成については吉田氏が中心となって対処する。
- c. 標準炉定数については炉定数専門部会にWGを設置したので、WGを開いてその活動を開始する。
- d. J E N D L - 3以降の評価活動について調査のためのタスクフォースを核データ専門部会内に設置した。
- e. 英文の2年報を作成する件については次の2年報編集委員会に申し送る。

### 3) WG 会合開催状況

配布資料4により現在までのWG 会合開催状況を浅見氏が報告した。8月末までに、昨年実績の1/2の旅費を使用した。

今年度については、次回運営委員会までに核データ研究会の費用がわかるので、各専門部会長にWG開催の優先順位を出してもらって、残りの旅費の割り振りを考えることにした。

また、次年度からは、年度当初に事務局と専門部会長で旅費の割り振りの原案を作成し、それを運営委員会で検討することにした。

### 4) 委員の交替

7月8日の本委員会で承認された本委員、運営委員、諮問・調整委員の名簿（配布資料5）を浅見氏が説明した。

諮問・調整委員会を早急に開き、委員長を委員の互選で決めてもらうことにした。

### 3. NEANDC第27回会合について

9月26日～30日に開かれる標記会合の議題（配布資料6）を五十嵐氏が説明した。

### 4. JENDL-3編集状況報告

JENDL-3の編集状況を浅見氏が報告した。また、五十嵐氏がJENDL-3は来年3月には完成させたいと述べた。

完成後のJENDL-3の取り扱いについて、JENDL編集グループとデータ提供基準検討小委員会で原案を作成し、次回の運営委員会で検討することにした。

### 5. 原子力学会関係

秋の大会のプログラムを中川氏が、30周年記念号の件を菊池氏がそれぞれ報告した。「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会については中嶋氏が報告した。

### 6. 専門部会関係事項

核データ専門部会の中に評価活動調査のタスクフォースを設けたことを水本氏が報告した（配布資料14）。

### 7. 核データ研究会準備状況

研究会準備委員会が作成した研究会のプログラム案（配布資料7）を瑞慶覧氏が説明した。プログラムの中で、「微分データと積分データの整合性」のセッションに対して、多くのコメントが出された。

### 8. JENDL-3以降の具体的活動及び組織

五十嵐氏が配布資料8と9を説明した。しかし、時間の関係で本議題は次回の運営委員会で検討することにした。

### 9. 核データ評価の国際協力及び検討グループについて

五十嵐氏が配布資料10、11、12を説明した。

続いて、「国際協力検討小グループ」について次の通り五十嵐氏から提案があった。

#### ・グループメンバー

水本（リーダー）、瑞慶覧、井頭、吉田、柴田

・検討事項

- 1) 日本が出来ることは何か？
- 2) 国際協力の方法

小グループの発足については承認された。

10. 医学用データ ad hoc 委員会答申の検討

医学用原子分子・原子核データWGに関する検討小委員会の答申（配布資料13）を中嶋氏が説明した。医学用データWGを常置的な調査グループとし、データの状況、利用及び現状を調査し、その情報を他WGへ提供することを主な目的とするとの結論であった。

これについて議論した結果、結論が出なかつたので、本答申の処置について事務局が案を作成し、次回に検討することとした。

11. 諮問・調整委員会への諮問事項について

各自次回の運営委員会までに諮問事項を考えてくることとした。

12. 宿題事項の確認

別紙 Action List の通り

13. 次回の予定

次回は10月21日（金）。オブザーバーとして松延氏（住友原工）、神田氏（九大）、飯島氏（NAIG）に出席してもらうことにした。

## Action List

	担当者	Action	期限
1	事務局	梶山氏に諮問・調整委員会の最終答申書を作成するよう依頼する。	至急
2	事務局	諮問・調整委員会を招集する。	至急
3	専門部会長	WG開催の優先順位を決める。	次回まで
4	事務局	医学用原子分子・原子核データWGに関する検討小委員会の答申に対する対応案を作成する。	次回まで
5	各委員	諮問・調整委員会への諮問事項を考える。	次回まで